

研究成果の発信

地球研では、研究成果を広く社会に還元するため、一般の方や研究者を対象にしたシンポジウム、フォーラム、セミナーなどのイベントを開催しています。また、総合地球環境学に関するさまざまな刊行物を積極的に出版しています。

イベント

地球研国際シンポジウム

地球研の研究成果を世界に発信することを目的として、国内外の研究者コミュニティを対象に年に1回開催しています。その年度に終了する研究プロジェクトの研究発表を中心に、最新の研究活動や海外諸国の地球環境研究の現状を紹介しています。

	テーマ	開催日	場所
第1回	水と人間生活	2006年11月 6日－ 8日	国立京都国際会館
第2回	緑のアジア ―その過去、現在、未来	2007年10月30日－31日	メルバルク京都
第3回	島の未来可能性 ―固有性と脆弱性を越えて	2008年10月22日－23日	地球研講演室
第4回	境界のジレンマ ―新しい流域概念の構築に向けて	2009年10月20日－22日	地球研講演室
第5回	多様性の過去と未来	2010年10月13日－15日	地球研講演室
第6回	人間社会の未来可能性	2011年10月26日－28日	地球研講演室
第7回	複雑化・単純化するアジア 生態系、ひとの健康と暮らし	2012年10月24日－26日	地球研講演室
第8回	環境変化とリスク	2013年10月23日－25日	地球研講演室
第9回	明日のメガシティ ―都市と地球環境の未来可能性	2014年 6月25日－27日	地球研講演室
第10回	ステークホルダーの参加を超えて： 新たな水管理における人間・文化・制度・生態系	2015年 6月17日－19日	地球研講演室



第10回地球研国際シンポジウム

地球研フォーラム

地球研の理念や研究成果に基づいて、地球環境問題について幅広い提起やディスカッションを行なうことを目的に、年に1回開催しています。

	テーマ	開催日	場所
第1回	地球環境学の課題 ―統合理解への道	2002年 5月17日	国立京都国際会館
第2回	地球温暖化 ―自然と文化	2003年 6月13日	国立京都国際会館
第3回	もし生き物が減っていくと ―生物多様性をどう考える	2004年 7月10日	国立京都国際会館
第4回	断ち切られる水	2005年 7月 9日	国立京都国際会館
第5回	森は誰のものか? ―森と人間の共生を求めて	2006年 7月 8日	国立京都国際会館
第6回	地球環境問題としての「食」	2007年 7月 7日	国立京都国際会館
第7回	もうひとつの地球環境問題 ―会うことのない人たちとともに	2008年 7月 5日	国立京都国際会館
第8回	よく生きるための環境 ―エコヘルスをデザインする	2009年 7月 5日	国立京都国際会館
第9回	私たちの暮らしのなかの生物多様性	2010年 7月10日	国立京都国際会館
第10回	足もとの水を見つめなおす	2011年 7月 3日	国立京都国際会館
第11回	“つながり”を創る	2012年 7月 8日	国立京都国際会館
第12回	“共に創る”地球環境研究	2013年 6月29日	国立京都国際会館
第13回	地球環境をどうデザインするか?	2014年 7月12日	国立京都国際会館
公開 シンポジウム	懐景創景－ Imaginary landscapes: The real and the possible	2016年 2月27日	南禅寺龍潤閣



第13回地球研フォーラム



公開シンポジウム
懐景創景—Imaginary landscapes: The real and the possible

地球研市民セミナー

地球研の研究成果や地球環境問題の動向をわかりやすく一般の方に紹介することを目的に、地球研または京都市内の会場において定期的に開催しています。専門用語や難しい概念を使用せず、環境の大切さを伝えるよう努めています。

	テーマ	開催日	講演者
第1回	シルクロード地域のロマンと現実	2004年11月 5日	中尾 正義 (地球研教授)
第2回	琵琶湖の水環境を守るには ——琵琶湖流域での研究活動から	2004年12月 3日	谷内 茂雄 (地球研助教授) 中野 孝教 (地球研教授)
第3回	亜熱帯の島・西表の自然と暮らし	2005年 2月 4日	高相徳志郎 (地球研教授) ほか
第4回	21世紀をむかえた世界の水問題	2005年 3月 4日	鼎 信次郎 (地球研助教授)
第5回	地球温暖化、ホント? ウソ?	2005年 4月 1日	早坂 忠裕 (地球研教授)
第6回	地球温暖化と地域の暮らし・環境 ——トルコの水と農から	2005年 6月 3日	渡邊 紹裕 (地球研教授) ほか
第7回	鴨川と黄河 ——その災いと恵み	2005年 9月 2日	福巖 義宏 (地球研教授)
第8回	東南アジアの魚と食	2005年10月 7日	秋道 智彌 (地球研教授)
第9回	生き物の豊かな森は持続的な社会に必要なである	2005年12月 2日	中静 透 (地球研教授)
第10回	環境の物語り論 ——環境の質と環境意識	2006年 2月 3日	吉岡 崇仁 (地球研助教授)
第11回	アムール川・オホーツク海・知床 ——巨大魚付林という考え	2006年 3月 3日	白岩 孝行 (地球研助教授)
第12回	モンスーンアジアからシルクロードへ ——ユーラシア環境史始	2006年 4月14日	佐藤洋一郎 (地球研教授)
第13回	どうなる日本の自然? どうなる日本の国土?	2006年 6月 9日	湯本 貴和 (地球研教授)
第14回	なぜインダス文明は崩壊したのか	2006年 9月22日	長田 俊樹 (地球研教授)
第15回	大地の下の“地球環境問題”	2006年10月20日	谷口 真人 (地球研助教授)
第16回	「景観」は生きている	2006年12月 1日	内山 純蔵 (地球研助教授)
第17回	病気もいろいろ ——人の医者、環境の医者	2007年 3月 9日	川端善一郎 (地球研教授) 奥宮 清人 (地球研助教授)
第18回	シルクロード ——人と自然のせめぎあい	2007年 4月20日	窪田 順平 (地球研准教授)
第19回	途上国農村のレジリエンスを考える	2007年 5月25日	梅津千恵子 (地球研准教授)
第20回	鎮守の森は原始の照葉樹林の生き残りか?	2007年 9月21日	小椋 純一 (京都精華大学教授) 湯本 貴和 (地球研教授)
第21回	京都の世界遺産 ——上賀茂の杜からのメッセージ	2007年10月12日	村松 晃男 (上賀茂神社権禰宣) 秋道 智彌 (地球研副所長・教授)
第22回	生きものにとって自然の森だけが大切なのか? ——熱帯と温帯の里山	2007年11月 9日	阿部 健一 (京都大学地域研究統合情報センター准教授) 市川 昌広 (地球研准教授)
第23回	地域・地球の環境 ——市民の役割・研究者の責任	2008年 2月15日	石田 紀郎 (京都学園大学教授) 渡邊 紹裕 (地球研教授)
第24回	黄河と華北平原の歴史	2008年 3月14日	木下 鉄矢 (地球研教授) 福巖 義宏 (地球研教授)
第25回	マレーシア熱帯林とモンゴル草原の大自然と環境破壊	2008年 4月18日	酒井 章子 (地球研准教授) 藤田 昇 (京大大学生態学研究センター助教) 山村 則男 (地球研教授)
第26回	地球環境の変化と健康 ——人びとのライフスタイルを変えるには	2008年 5月16日	門司 和彦 (地球研教授) 奥宮 清人 (地球研准教授)
第27回	捕鯨論争 —— 21世紀における人間と野生生物の関わりを考える	2008年 9月19日	星川 淳 (NPO法人グリーンピース・ジャパン事務局長) 秋道 智彌 (地球研副所長・教授)
第28回	年輪年代学 ——過去から未来へ	2008年10月17日	光谷 拓実 (地球研客員教授) 佐藤洋一郎 (地球研副所長・教授)
第29回	厳寒のシベリアに暮らす人々と温暖化	2008年11月21日	井上 元 (地球研教授) 高倉 浩樹 (東北大学東北アジア研究センター准教授)
第30回	里山・里海から SATOYAMA SATOUMI へ	2009年 1月23日	あん・まくどなど (国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長) 阿部 健一 (地球研教授)

	テーマ	開催日	講演者
第31回	南極から地球環境がよく見える	2009年 3月13日	中尾 正義 (人間文化研究機構理事) 斎藤 清明 (地球研教授)
第32回	石油資源がなくなったとき、どうやって生活していきますか?	2009年 4月17日	嶋田 義仁 (名古屋大学大学院文学研究科教授) 縄田 浩志 (地球研准教授)
第33回	世界の水、日本の水 —— 21世紀の日本の役割	2009年 6月19日	竹村公太郎 (日本水フォーラム事務局長・財団法人 リバーフロント整備センター理事長) 渡邊 紹裕 (地球研教授)
第34回	万物共存の哲学 —— 環境思想としての朱子学	2009年 9月11日	木下 鉄矢 (地球研教授)
第35回	中国の環境問題 —— 国際的民間協力の役割と可能性	2009年10月16日	高見 邦雄 (認定NPO法人緑の地球ネットワーク事務局長) 窪田 順平 (地球研准教授)
第36回	現代インドの経済発展と環境問題	2009年12月18日	ヴィカース・スワループ (駐大阪神戸インド総領事) 長田 俊樹 (地球研教授)
第37回	地球温暖化と水	2010年 2月16日	真鍋 淑郎 (プリンストン大学大気海洋研究プログラム上級研究員)
第38回	キョウト遺産 VS. シンヤ遺産 —— まちの力を未来につなげる	2010年 4月16日	中川 理 (京都工芸繊維大学教授) 村松 伸 (地球研教授)
第39回	ねんでんさんに訊く“俳句と環境問題”	2010年 6月18日	坪内 稔典 (佛教大学教授)
第40回	石油資源がなくなったとき、どうやって生活していきますか? —— その2	2010年 9月17日	鷹木 恵子 (桜美林大学教授) 石山 俊 (地球研プロジェクト研究員)
第41回	神話から学ぶ人間と自然とのありかた —— ポプ・サムさんによるストーリー・テリング	2010年11月30日	ポプ・サム(アラスカ・クリンギット族) 羽生 淳子 (地球研招へい研究員/カリフォルニア 大学バークレー校准教授)
第42回	水俣に学ぶ —— 公害から地球環境問題へ	2011年 2月15日	原田 正純 (元熊本学園大学教授)
第43回	東日本大震災 —— 被災者主体の復興への道筋	2011年 5月19日	室崎 益輝 (関西学院大学災害復興制度研究所所長) 窪田 順平 (地球研准教授)
第44回	地球環境学へのいざない —— 研究の裏舞台	2011年 8月 5日	谷口 真人 (地球研教授) 渡邊三津子 (地球研プロジェクト研究員)
第45回	石油資源がなくなったとき、どうやって生活していきますか? —— その3	2011年 9月 9日	大沼 洋康 (国際耕種株式会社代表取締役) 中西 昭雄 (中西木材株式会社代表取締役) 縄田 浩志 (地球研准教授) 石山 俊 (地球研プロジェクト研究員)
第46回	新しいインダス文明像を求めて	2012年 5月11日	前杵 英明 (広島大学教授) 長田 俊樹 (地球研教授)
第47回	東南アジアの環境破壊と食卓のゆくえ	2012年 6月22日	嘉田 良平 (地球研教授)
第48回	遠い世界に思いをはせる —— アフリカでの開発支援をめぐる	2013年 1月18日	田中 樹 (地球研准教授)
第49回	参加体験型セミナー 自分という自然を生きる	2013年 2月15日	中野 民夫 (ワークショップ企画プロデューサー・ 同志社大学教授)
第50回	持続可能な地域づくりを支える科学 —— 地域環境知プロジェクトがめざすもの	2013年 5月24日	佐藤 哲 (地球研教授)
第51回	農山村の人とくらし —— 獣害のようすとその対策	2013年 6月21日	矢尾田清幸 (地球研プロジェクト研究員)
第52回	水俣から MINAMATA へ —— 加害者は誰か	2013年 9月10日	ジュディ・デ・シルバ (グラスノーナロウズ居留地事務所行政官(カナダ)) 花田 昌宣 (熊本学園大学水俣学研究センター長)
第53回	< アラブの春 > —— 地球環境から考える	2013年 9月20日	鷹木 恵子 (桜美林大学教授) 縄田 浩志 (地球研准教授)
第54回	沿岸環境と魚の話	2013年10月18日	石川 智士 (地球研准教授)
第55回	地球温暖化リスクと人類の選択	2013年12月11日	江守 正多 (国立環境研究所地球環境研究センター 気候変動リスク評価研究室長)
第56回	猟師さんに聞く —— 京都の山と動物のこと	2014年 2月21日	千松 信也 (猟師)
第57回	マータイさんにきいてみよう「平和」と「環境」のこと	2014年 2月23日	ワンジラ・マータイ (ワンガリ・マータイ平和と環境学研究所理事)
第58回	平家は驕っていたから滅んだのか? —— 樹木年輪からの解答	2014年 7月18日	中塚 武 (地球研教授)
第59回	より深く珈琲とチョコレートを楽しむために —— 生産地と消費地をつなぐ	2014年 9月19日	吉野 慶一 (Dari K 株式会社代表取締役)
第60回	花街のおかあさんに聞く —— 環境問題と京の衣食住	2014年10月17日	今井貴美子 (上七軒「大文字」女将)
第61回	高校生とともに考える「京・街・環境」	2015年 2月12日	京都府立洛北高校生
第62回	食の多様性と文化の盛衰 —— 考古学からみた環境問題	2015年 4月30日	羽生 淳子 (地球研教授) 村上由美子 (京都大学総合博物館准教授)
第63回	水でつながる京の暮らしと明日のびわ湖	2015年 5月19日	奥田 昇 (地球研准教授) 鎌谷かおる (地球研プロジェクト研究員)
第64回	市民と作る水質マップ	2015年11月20日	中野 孝教 (地球研教授) 大西 有子 (地球研助教)
第65回	安定同位体でわかる生き物のつながり	2015年12月 4日	陀安 一郎 (地球研教授) 小林 由紀 (地球研プロジェクト研究員)

	テーマ	開催日	講演者
第66回	高校生とともに考える「心・暮らし・環境」	2016年 2月 4日	京都府立洛北高校生
第67回	市民と作る水質マップその2：京都の水から考える	2016年 3月25日	中野 孝教(地球研教授) 菊地 直樹(地球研准教授)



第62回地球研市民セミナー



第63回地球研市民セミナー

地球研地域連携セミナー

世界や日本の地域で共通する地球環境問題の根底を探り、解決のための方法を考えていくことを目的に、各地域の大学や研究機関などと連携してセミナーを開催しています。

	テーマ	開催日	場 所
第1回	雪と人 ——くらしをささえる日本海	2005年 9月17日	富山県富山市
第2回	火山と水と食 ——鹿児島を語る!	2006年 9月18日	鹿児島県鹿児島市
第3回	伊豆の、花と海。 ——伊東から考える地球環境	2007年 9月15日	静岡県伊東市
第4回	災害と「しのぎの技」 ——池島・福万寺遺跡が語る農業と環境の関係史	2008年11月 8日	大阪府和泉市
第5回	やんばるに生きる ——自然・文化・景観のゆたかさを育む地域と観光	2009年 2月13日 2009年 2月14日	沖縄県名護市 沖縄県国頭村
第6回	山・ひと・自然 ——厳しい自然を豊かに生きる	2009年11月28日	長野県松本市
第7回	にほんの里から世界の里へ	2010年 2月 6日	石川県金沢市
第8回	多様性の伝えかた ——子どもたちのための自然と文化	2010年10月10日	愛知県名古屋
第9回	ユーラシアへのまなざし ——ソ連崩壊 20年後の環境問題	2011年 6月12日	北海道札幌市
第10回	水辺の保全と琵琶湖の未来可能性	2012年 1月14日	滋賀県大津市
第11回	東アジアの「環境」安全保障 ——風上・風下論を超えて	2012年 6月10日	福岡県福岡市
第12回	分かちあう豊かさ ——地域のなかのcommons	2012年10月13日	山梨県富士吉田市
第13回	地球の未来・地域の知力 ——環境問題の解決に向けて	2014年 2月11日	鳥取県鳥取市
第14回	地域の未来可能性 ——農村に生きることの豊かさ	2015年 2月15日	大分県宇佐市
第15回	「のさり」の活かし方 ——天草の未来可能性	2016年 1月19日	熊本県天草市
第16回	北潟湖の未来可能性 ——身近な湖の活かしかた	2016年 3月 6日	福井県あわら市



第15回地球研地域連携セミナー(天草)



第16回地球研地域連携セミナー(あわら)

地球研東京セミナー

地球研の研究成果と今後のさらなる進展について、国内の研究者コミュニティや一般の方に理解と協力を呼びかけていくため、東京でのセミナーを開催しています。

	テーマ	開催日	場 所
第1回	人・水・地球 —— 未来への提言	2009年10月 9日	霞山会館
第2回	(人間文化研究機構第13回公開講演会・シンポジウム) 食 —— 生物多様性と文化多様性の接点	2010年 7月16日	有楽町朝日ホール
第3回	(人間文化研究機構第17回公開講演会・シンポジウム) 遠い森林、近い森 —— 関係性を問う	2011年10月 7日	国立京都国際会館
第4回	(人間文化研究機構第20回公開講演会・シンポジウム) コモンズ —— 豊かさのために分かちあう	2013年 1月25日	有楽町朝日ホール
第5回	都市は地球の友達か!? —— 地球環境とメガシティの過去・現在・未来	2014年 1月24日	有楽町朝日ホール
第6回	環境問題は昔からあった —— 過去から見える未来	2015年 1月16日	有楽町朝日ホール
第7回	人が空を見上げるとき —— 文化としての自然	2016年 1月29日	有楽町朝日ホール



第7回地球研東京セミナー

地球研オープンハウス

2011年度から、広く地域の方々との交流を深めるために、地球研の施設や研究内容を紹介するオープンハウスを開催しています。各プロジェクト研究室でのイベント、キッズセミナーやクイズラリー、実験室見学ツアーなど、地球研を身近に感じていただくための企画を実施しています。

	開催日	場 所
2011年度 地球研オープンハウス	2011年 8月 5日	地球研
2012年度 地球研オープンハウス	2012年 8月 3日	地球研
2013年度 地球研オープンハウス	2013年 8月 2日	地球研
2014年度 地球研オープンハウス	2014年 8月 1日	地球研
2015年度 地球研オープンハウス	2015年 7月31日	地球研



2015年度地球研オープンハウス

地球研キッズセミナー

小中学生を対象とし、専門用語や難しい概念を使用せず、環境の大切さを伝えるよう努めています。

	テーマ	開催日	講演者
第1回	恐竜はいきている！ カエルは人間のご先祖さま？ 絶滅した生き物とわたしたち	2010年 8月23日	富田 京一（肉食爬虫類研究所代表） 縄田 浩志（地球研准教授）
第2回	熱帯雨林の不思議な生き物たち	2011年 8月 5日	湯本 貴和（地球研教授）
第3回	「アルペド」って何だろう？	2012年 8月 3日	檜山 哲哉（地球研准教授）
第4回	田んぼの土のひみつ	2013年 8月 2日	橋本(渡部)慧子(地球研プロジェクト研究員)
第5回	木の年輪からさぐるむかしの環境	2014年 8月 1日	佐野 雅規（地球研プロジェクト上級研究員）
第6回	古代湖・びわ湖の魚のふしぎ	2015年 7月31日	奥田 昇（地球研准教授）



第6回地球研キッズセミナー

KYOTO 地球環境の殿堂

「京都議定書」誕生の地である京都の名のもと、世界で地球環境の保全に多大な貢献をした方の功績を称えています。その功績を永く後世に引き継ぎ、京都から世界に向けて広く発信することにより、地球環境問題の解決に向けたあらゆる国、地域、人びとの意志の共有と取り組みの推進を目的としています。本顕彰は、「KYOTO 地球環境の殿堂」運営協議会（京都府、京都市、京都商工会議所、環境省、国際高等研究所、国立京都国際会館、地球研）が中心となり、環境分野の専門家、学識者、活動家などで構成する選考委員会で選考されます。

	殿堂入り者	称号・職位など	業績
第1回	グロ・ハルレム・ブルトラント 氏 真鍋 淑郎 氏 ワンガリ・マータイ 氏 シグミ・シンゲ・ワンチュク陛下	元ノルウェー首相 プリンストン大学上級研究員 2004年ノーベル平和賞受賞者 ブータン王国第4代国王	「持続可能な開発」概念を世界に提唱 気候変動を新たなモデルで分析し、地球科学分野で活躍 「もったいない」を環境のキーワードとして世界に広める 「国民総幸福度」（GNH: Gross National Happiness）の概念を提唱
第2回	原田 正純 氏 エリノア・オストロム 氏	元熊本学園大学教授 2009年ノーベル経済学賞受賞者	水俣病をはじめとした公害問題の社会医学的な研究 コモンズ（共有資源）の理論的・実証的な研究
第3回	クラウド・テプファー 氏 レスター・R・ブラウン 氏	先端的持続可能性研究所所長 アースポリシー研究所所長	UNEP（国連環境計画）の事務局長として、地球環境保全の具体的な施策を推進 エネルギーや人口・食料問題などに警鐘を鳴らし、地球環境問題の思想を普及
第4回	ヴァンダナ・シヴァ 氏 エイモリー・B・ロビンズ 氏	環境哲学者・物理学者 ロッキーマウンテン研究所理事長	伝統的スタイルに根ざした価値観や社会構成の重要性など、環境と共生する思想を普及 エネルギー利用に関する学術研究の成果をもとにした先進的な戦略「ソフトエネルギー・パス」を提唱
第5回	宮脇 昭 氏	公益財団法人地球環境戦略研究機関国際生態学センター長	土地に在来種の樹木を密集させて植え込み、植物がもつ競争力を生かしながら緑を増やす植樹方法「宮脇方式」を提唱
第6回	畠山 重篤 氏	NPO 法人「森は海の恋人」理事長	20年以上にわたり漁民による広葉樹の植林活動を続けるなど、森林の育成や林業の健全な発展に貢献
第7回	デヴィッド・タカヨシ・スズキ／セヴァン・カリス・スズキ親子 ハーマン・E・デイリー 氏	生物学者、環境活動家、ブリティッシュコロンビア大学名誉教授／環境・文化活動家、作家 メリーランド大学名誉教授	世代をつなぎ親子で環境思想を広めている点が評価され、今回初めてペアでの殿堂入り。親子二代で、複雑、専門的になりがちな環境問題を、誰にでもわかりやすく訴え続けるなど、環境思想の普及に貢献 森林や水など、再生可能な資源の持続可能な利用速度は、その供給源の再生速度を超えてはならないなどの「ハーマン・デイリーの3原則」を提唱



第7回KYOTO地球環境の殿堂 表彰式



表彰式にてあいさつを述べる
デヴィッド・タカヨシ・スズキ 氏

京都環境文化学術フォーラム

地球温暖化をはじめとする地球環境問題を解決するため、京都府、京都市、京都大学、京都府立大学などとともに、環境・経済・文化などの分野にわたる国際的な学術会議を2009年度から開催しています。「京都地球環境の日(2月16日)」の記念行事と位置づけ、「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式と同時に開催しています。



第7回京都環境文化学術フォーラム

日文研・地球研合同シンポジウム

人間文化研究機構における新しい人間文化研究の可能性として、日本文化の研究が地球環境問題にいかなる貢献をすることができるかについて提案することを目的としています。

	テーマ	開催日	場 所
第1回	山川草木の思想 —— 地球環境問題を日本文化から考える	2008年 6月21日	シルクホール
第2回	京都の文化と環境 —— 水と暮らし	2009年 5月 9日	日文研講堂
第3回	京都の文化と環境 —— 森や林	2010年 5月22日	日文研講堂
第4回	環境問題はなぜ大事か —— 文化から見た環境と環境から見た文化	2011年 5月21日	日文研講堂
第5回	文化・環境は誰のもの?	2012年 9月14日	日文研講堂

地球研セミナー

地球研に滞在中の招へい外国人研究員が講師となって、地球環境問題に関する最新の話題と研究動向を共有し、広い視座から地球環境学をとらえようとする公開セミナーです。



第122回地球研セミナーにて講演するオギュスタン・ベルク氏



第124回地球研セミナーにて講演するローランド・ショルツ氏

談話会セミナー

原則月2回、昼休憩を利用して行なうランチセミナーです。地球研の若手研究者が中心となって、各自の研究背景をふまえた話題を提供し、研究者相互の理解と交流を深めています。



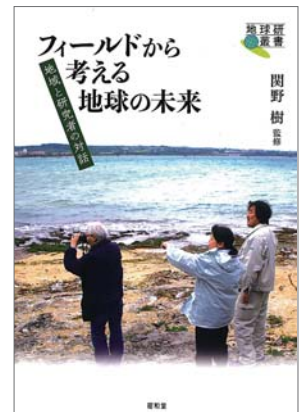
談話会セミナー

刊行物

地球研叢書

地球研の研究成果を学問的にわかりやすく紹介する出版物です。

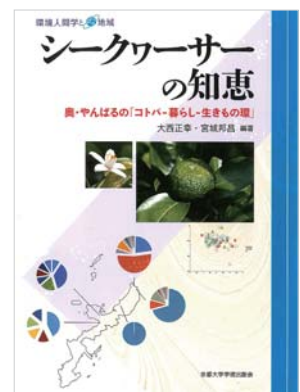
タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
生物多様性はなぜ大切か？	日高 敏隆 編	昭和堂	2005年 4月
中国の環境政策 生態移民 ——緑の大地、内モンゴルの砂漠化を防げるか？	小長谷有紀、シンジルト、 中尾 正義 編	昭和堂	2005年 7月
シルクロードの水と緑はどこへ消えたか？	日高 敏隆、中尾 正義 編	昭和堂	2006年 3月
森はだれのものか？ ——アジアの森と人の未来	日高 敏隆、秋道 智彌 編	昭和堂	2007年 3月
黄河断流 ——中国巨大河川をめぐる水と環境問題	福嶋 義宏 著	昭和堂	2008年 1月
地球の処方箋 ——環境問題の根源に迫る	総合地球環境学研究所 編	昭和堂	2008年 3月
食卓から地球環境がみえる ——食と農の持続可能性	湯本 貴和 編	昭和堂	2008年 3月
地球温暖化と農業 ——地域の食料生産はどうなるのか？	渡邊 紹裕 編	昭和堂	2008年 3月
水と人の未来可能性 ——しのびよる水危機	総合地球環境学研究所 編	昭和堂	2009年 3月
モノの越境と地球環境問題 ——グローバル化時代の〈知産知消〉	窪田 順平 編	昭和堂	2009年10月
安定同位体というメガネ ——人と環境のつながりを診る	和田英太郎、神松 幸弘 編	昭和堂	2010年 3月
魚附林の地球環境学 ——親潮・オホーツク海を育むアムール川	白岩 孝行 著	昭和堂	2011年 3月
生物多様性 どう生かすか ——保全・利用・分配を考える	山村 則男 編	昭和堂	2011年10月
食と農の未来 ——ユーラシア一万年の旅	佐藤洋一郎 著	昭和堂	2012年 3月
生物多様性 子どもたちにどう伝えるか？	阿部 健一 編	昭和堂	2012年10月
ポスト石油時代の人づくり・モノづくり ——日本と産油国の未来像を求めて	石山 俊、縄田 浩志 編	昭和堂	2013年 3月
食と農のサバイバル戦略	嘉田 良平 著	昭和堂	2014年 3月
五感／五環 ——文化が生まれるとき	阿部 健一 監修	昭和堂	2015年 3月
人は火山に何をみるのか ——環境と記憶／歴史	寺田 匡宏 著	昭和堂	2015年 3月
フィールドから考える地球の未来 ——地域と研究者の対話	関野 樹 監修	昭和堂	2016年 3月



地球研和文学術叢書

地球研の研究成果を研究者に向けて発信する出版物です。

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
環境人間学と地域 インダス ——南アジア基層世界を探る	長田 俊樹 編著	京都大学学術出版会	2013年10月
環境人間学と地域 モンゴル ——草原生態系ネットワークの崩壊と再生	藤田 昇、加藤 聡史、 草野 栄一、幸田 良介 編著	京都大学学術出版会	2013年10月
環境人間学と地域 シベリア ——温暖化する極北の水環境と社会	檜山 哲哉、藤原 潤子 編著	京都大学学術出版会	2015年 3月
環境人間学と地域 シークワサーの知恵 ——奥・やんばるの「コトバ・暮らし・生きもの環」	大西 正幸、宮城 邦昌 編著	京都大学学術出版会	2016年 3月



地球研英文叢書

地球研の研究成果を国際社会に向け広く発信する英文での出版物です。

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
Island Futures	BALDACCHINO, Godfrey・NILES, Daniel 編	Springer	2011年 7月
The Dilemma of Boundaries	谷口 真人、白岩 孝行 編	Springer	2012年 5月
Groundwater as a Key for Adaptation to Changing Climate and Society	谷口 真人、檜山 哲哉 編	Springer	2014年 7月
Social-Ecological Systems in Transition	酒井 章子、梅津千恵子 編	Springer	2014年 8月



地球研ライブラリー

地球研所員による研究活動を広く紹介する学術出版物です。

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
クスノキと日本人——知られざる古代巨樹信仰	佐藤洋一郎 著	八坂書房	2004年10月
世界遺産をシカが喰う——シカと森の生態学	湯本 貴和、松田 裕之 編	文一総合出版	2006年 3月
ヒマラヤと地球温暖化——消えゆく氷河	中尾 正義 編	昭和堂	2007年 3月
Indus Civilization: Text and Context	長田 俊樹 編	Manohar	2007年 3月
人はなぜ花を愛でるのか	日高 敏隆、白幡洋三郎 編	八坂書房	2007年 3月
農耕起源の人類史	ピーター・ベルウッド 著 長田 俊樹、佐藤洋一郎 監訳	京都大学学術出版会	2008年 7月
モンスーン農耕圏の人びとと植物 (ユーラシア農耕史1)	佐藤洋一郎 監修 鞍田 崇 編	臨川書店	2008年12月
日本人と米 (ユーラシア農耕史2)	佐藤洋一郎 監修 木村 栄美 編	臨川書店	2009年 3月
砂漠・牧場の農耕と風土 (ユーラシア農耕史3)	佐藤洋一郎 監修 鞍田 崇 編	臨川書店	2009年 6月
Indus Civilization: Text and Context Vol.2	長田 俊樹 編	Manohar	2009年 9月
Linguistics, Archaeology and Human Past in South Asia	長田 俊樹 編	Manohar	2009年 9月
さまざまな栽培植物と農耕文化 (ユーラシア農耕史4)	佐藤洋一郎 監修 木村 栄美 編	臨川書店	2009年10月
農耕の変遷と環境問題 (ユーラシア農耕史5)	佐藤洋一郎 監修 鞍田 崇 編	臨川書店	2010年 1月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 1	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2010年 8月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 2	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2010年 8月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 3	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2010年 8月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 4	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 5	DANGI, Vivek 著	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 6	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 7	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 8 Part 1	LAW, Randall William 著	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 8 Part 2	LAW, Randall William 著	Manohar	2011年 7月
焼畑の環境学——いま焼畑とは	佐藤洋一郎 監修 原田 信男、鞍田 崇 編	思文閣出版	2011年 9月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 9	長田 俊樹、遠藤 仁 編	Manohar	2012年 2月
石油時代・中東における樹木資源の利用と保全 〔アラブなりわいモノグラフ〕シリーズ 第1巻)	縄田 浩志、石山 俊、 中村 亮 著	松香堂書店	2013年 1月
乾燥地のマングローブ——研究と保全のフロンティア 〔アラブなりわいモノグラフ〕シリーズ 第2巻)	縄田 浩志 編	松香堂書店	2013年 2月
危機言語——言語の消滅でわれわれは何を失うのか	EVANS, Nicholas 著	京都大学学術出版会	2013年 2月
ナツメヤシ (アラブのなりわい生態系 第2巻)	石山 俊、縄田 浩志 編	臨川書店	2013年12月
マングローブ (アラブのなりわい生態系 第3巻)	中村 亮、縄田 浩志 編	臨川書店	2013年12月
外来植物メスキート (アラブのなりわい生態系 第4巻)	星野 仏方、縄田 浩志 編	臨川書店	2013年12月

地球研ニュース (Humanity & Nature Newsletter)

地球研として何を考えているのか、またどのような所員がいて、どこでどのような研究活動をしているかなどの最新情報を、研究者コミュニティに向けて発信するもので、隔月で刊行しています。特に、地球研にかかわっている国内外の研究者を対象に、コミュニケーションの場のひとつとして機能することをめざしています。



その他

上記のシリーズ以外で、地球研の研究者が執筆・編集した主な成果物です。地球研の研究成果を研究者に向けて発信する出版物です。

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
地球環境学事典	総合地球環境学研究所 編	弘文堂	2010年10月
人間科学としての地球環境学 ——人とつながる自然・自然とつながる人	立本 成文 編著	京都通信社	2013年 5月
地球環境学マニュアル1 ——共同研究のすすめ	総合地球環境学研究所 編	朝倉書店	2014年 1月
地球環境学マニュアル2 ——はかる・みせる・読みとく	総合地球環境学研究所 編	朝倉書店	2014年 1月
国際資源管理認証 エコラベルがつなぐグローバルとローカル	大元 鈴子、佐藤 哲、 内藤 大輔 編	東京大学出版会	2016年 3月
水を分かつ —— 地域の未来可能性の共創	窪田 順平 編	勉誠出版	2016年 3月



印刷物等

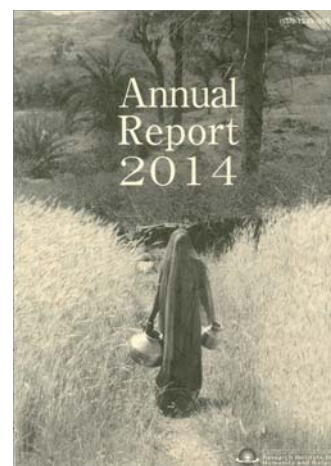
地球研で取りまとめた印刷物です。いくつかの印刷物は、ホームページや iTunes U で閲覧することができます。

タイトル	著者・編者	出版年月
統合知の形成をめざして ——地球研 研究推進戦略センター 5年6ヶ月の軌跡	総合地球環境学研究所 研究推進戦略センター 編	2010年 3月
総合地球環境学構築に向けて ——地球研 10年誌	総合地球環境学研究所編	2011年 3月
Humanity and Nature in the Japanese Archipelago 『日本列島における人間と自然』	総合地球環境学研究所 編	2015年 3月
フィールドぶらり1「岐阜」 自転車であぐる・みんなで考える ——長良川河畔のエリアケイパビリティー	地球研若手研究員連携 プロジェクト編	2015年 3月
幡豆の干潟探索ガイドブック	石川 智士、仁木 将人、 吉川 尚 編	2016年 2月
幡豆の海と人びと	石川 智士、吉川 尚 編	2016年 3月
フィールドぶらり2「高島」 トチノキにあいにゆく・みんなで考える ——朽木知内で語り合う「私たちの」インターディシプリナリティ	地球研若手研究員連携 プロジェクト編	2016年 3月
フィールドぶらり3「尾道」 坂道をあぐる・みんなで考える ——「尾の道」のランドスケープ	地球研若手研究員連携 プロジェクト編	2016年 3月



年報

地球研の研究プロジェクトおよび研究者の年度ごとの活動を総括した報告書です。



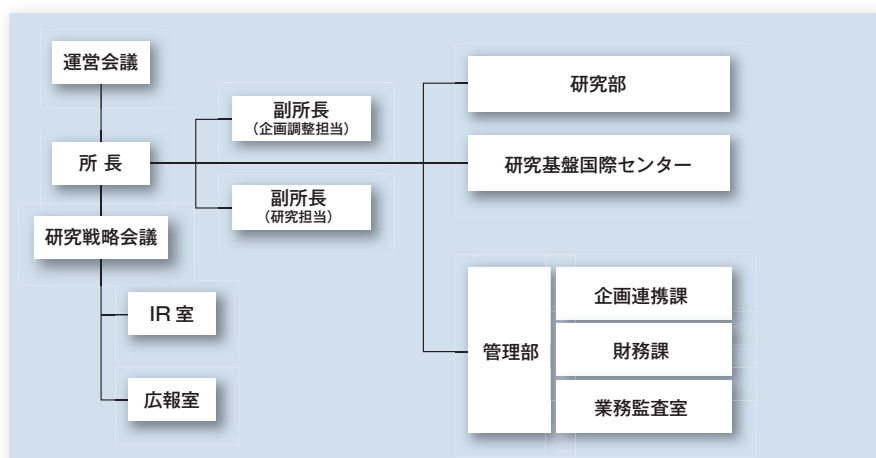
組織

■ 沿革

1995 (平成7年)	4月 ● 「地球環境科学の推進について」(学術審議会建議) 「地球環境問題の解決を目指す総合的な共同研究を推進する中核的研究機関を設立することを検討する必要がある。」
	10月 ● 「地球環境科学の中核的研究機関に関する調査研究会」を設置
1997 (平成9年)	3月 ● 「地球環境科学に関する中核的研究機関のあり方に関する研究報告書」(地球環境科学の中核的研究機関に関する調査研究会)
	6月 ● 「地球環境保全に関する当面の取組」(地球環境保全に関する関係閣僚会議) 「幅広い学問分野の研究者が地球環境問題について、総合的に研究を行うことができるよう、地球環境科学の研究組織体制の整備に関する調査研究を行う。」
	7月 ● 文部省が「地球環境科学の研究組織体制のあり方に関する調査協力者会議」を設置
1998 (平成10年)	4月 ● 地球環境科学研究所(仮称)の準備調査を開始
2000 (平成12年)	3月 ● 地球環境科学研究所(仮称)準備調査委員会、人文・社会科学から自然科学にわたる学問分野を総合化し、国内外の大学、研究機関とネットワークを結び、総合的な研究プロジェクトを推進するための「総合地球環境学研究所(仮称)」の創設を提言
	4月 ● 総合地球環境学研究所(仮称)創設調査室を設置するとともに創設調査機関に創設調査委員会を設置
2001 (平成13年)	2月 ● 「総合地球環境学研究所(仮称)の構想について」(最終報告)(創設調査委員会)
	4月 ● 総合地球環境学研究所の創設 国立学校設置法施行令の一部を改正する政令(平成13年政令第151号)の施行にともない、総合地球環境学研究所を創設し、京都大学構内において研究活動を開始。初代所長に日高敏隆が就任
2002 (平成14年)	4月 ● 旧京都市立春日小学校(京都市上京区)へ移転
2004 (平成16年)	4月 ● 大学共同利用機関の法人化にともない、「大学共同利用機関法人 人間文化研究機構」に所属
2005 (平成17年)	12月 ● 新施設(京都市北区上賀茂本山)竣工
2006 (平成18年)	2月 ● 旧春日小学校より新施設(京都市北区上賀茂本山)へ移転
	5月 ● 総合地球環境学研究所施設竣工記念式典を実施
2007 (平成19年)	4月 ● 立本成文が第二代所長に就任
	5月 ● 副所長を設置
	10月 ● 研究推進センターを研究推進戦略センターに改組
2011 (平成23年)	4月 ● 創立10周年記念シンポジウムを開催
2013 (平成25年)	4月 ● 安成哲三が第三代所長に就任
	4月 ● 研究推進戦略センターを研究推進戦略センターと研究高度化支援センターに改組
2014 (平成26年)	7月 ● 地球研が Future Earth のアジア地域拠点 / 事務局に選定
2016 (平成28年)	4月 ● 研究推進戦略センターと研究高度化支援センターを研究基盤国際センターに改組

旧春日小学校時代の地球研(2002年4月～2006年1月)

■ 組織図



■ 財務セグメント情報 (2014年度)

業務費用		業務収益	
種別	金額 (千円)	種別	金額 (千円)
業務費	1,822,095	運営費交付金収益	1,735,773
共同利用・共同研究経費	900,269	受託研究等収益	68,605
教育研究支援経費	96,217	受託事業等収益	1,113
受託研究費	54,476	寄附金収益	4,997
受託事業費	1,113	その他	155,339
人件費	770,018		
一般管理費	106,280		
財務費用	28,891		
費用計	1,957,267	収益計	1,965,829
業務損益			8,562

■ 外部資金等 (2014年度)

区分	件数	金額 (千円)
受託研究費	11 件	93,503
寄附金	3 件	13,582
科学研究費	31 件	70,590
基盤研究 (A)	2 件	23,400
基盤研究 (B)	2 件	14,950
基盤研究 (C)	3 件	4,030
挑戦的萌芽研究	9 件	10,010
若手研究 (B)	13 件	15,470
研究活動スタート支援	2 件	2,730

■ 運営組織と役割

■ 運営会議 研究所の人事、事業計画、その他管理運営に関する重要事項について審議します。

(所外委員)

池谷 和信	国立民族学博物館民族文化研究部教授
大槻 恭一	九州大学大学院農学研究院教授
嘉田由紀子	びわこ成蹊スポーツ大学学長
神沢 博	名古屋大学大学院環境学研究科研究科長
小池 俊雄	東京大学大学院工学系研究科教授
河野 泰之	京都大学東南アジア研究所長
新川 達郎	同志社大学大学院総合政策科学研究科教授
野家 啓一	東北大学教養教育院総長特命教授

(所内委員)

窪田 順平	副所長・研究基盤国際センター長
谷口 真人	副所長・コアプログラムディレクター
佐藤 哲	教授
田中 樹	教授
陀安 一郎	教授
中塚 武	教授
MALLEE, Hein	教授

■ 研究プログラム評価委員会 研究所の研究プロジェクト等に関し、必要な事項を専門的に調査審議します。

(国内委員)

中西 久枝	同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授
小池 勲夫	東京大学名誉教授
安岡 善文	東京大学名誉教授
和田英太郎	日本学士院会員／京都大学名誉教授
内堀 基光	放送大学教授
戸田 隆夫	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 人間開発部長

(海外委員)

MCDONALD, Anne	Professor, Graduate School of Global Environmental Studies, Sophia University, JAPAN
RANDALL, Roland	Life Fellow, Girton College, University of Cambridge, UK

SCHOLZ, Roland

Professor Emeritus, Institute for Environmental Decisions, Swiss Federal Institute of Technology Zurich, SWITZERLAND

VAN DER LEEUW, Sander

Foundation Professor, School of Sustainability, Arizona State University, USA

BAI, Xuemei

Professor, Urban Environment and Human Ecology, Fenner School of Environment and Society, Australian National University, AUSTRALIA

BINDER, Claudia

Professor, Laboratory for Human-Environmental Relations in Urban Systems (HERUS) IIE - ENAC - EPFL, SWITZERLAND

ZHANG, Shiqiu

Professor, College of Environmental Sciences and Engineering, Peking University, CHINA

LU, Yonglong

Professor, Research Center for Eco-Environmental Science Chinese Academy of Sciences, CHINA

■ 研究戦略会議 主に研究所の研究戦略を審議し、また人事、プロジェクト、評価に関する事項を決定します。

安成 哲三	所長	中静 透	客員教授	中塚 武	教授
窪田 順平	副所長	佐藤 哲	教授	MALLEE, Hein	教授
谷口 真人	副所長	田中 樹	教授	河野 浩	管理部長
杉原 薫	特任教授	陀安 一郎	教授		

■ 顧問

立本 成文

■ 名誉教授 (称号授与年月日)

中西 正己 (2003年4月1日)	秋道 智彌 (2012年4月1日)	佐藤洋一郎 (2013年10月1日)
和田英太郎 (2004年8月1日)	川端善一郎 (2012年4月1日)	門司 和彦 (2013年10月1日)
日高 敏隆 (2007年4月1日) (故人)	長田 俊樹 (2012年10月1日)	嘉田 良平 (2014年4月1日)
中尾 正義 (2008年4月1日)	立本 成文 (2013年4月1日)	中野 孝教 (2016年4月1日)
福嶋 義宏 (2008年4月1日)		

■ 所員

■ 所長 安成 哲三

■ 副所長 窪田 順平
(企画調整担当) (併任)

■ 副所長 谷口 真人
(研究担当) (併任)

管理部 ■ 部長 河野 浩

■ 企画連携課

課長	平石 憲良
課長補佐	北 幸史
総務企画係 係長	ビヴォーネ純子
係員	井上 裕子
係員	刈谷 翠
係員	中西 啓太
係員	永田 智子
人事係 係長	永田 幸大
係員	田中奈保子
係員	中大路 悠
国際交流係 主任	藤川 剛

連携推進室 室長 植田 康敏

研究企画係 係長	成井 明德
主任	石井 初恵
共同利用係 係長	錢塚 理恵
係員	増田 真帆

■ 財務課

課長	大林 玲子
課長補佐	寺澤 邦裕
財務企画係 係長	宮内 照明
係員	辻村はな子
施設管理係 係長	大石 徹
経理係 係長	上垣 泰浩
調達係 係長	野波 正俊
係員	澤村 貴弘

■ 業務監査室

室長	大林 玲子 (併任)
監査係 係長	宮内 照明 (併任)

研究部

■プログラムディレクター

杉原 薫 (経済史・環境史)
中静 透 (森林生態学・生物多様性)

■教授

石川 智士 (保全生態学・国際水産開発学)
佐藤 哲 (地球環境学・保全生態学)
田中 樹 (境界農学)
中塚 武 (生物地球化学・古気候学)
羽生 淳子 (環境考古学)

■准教授

遠藤 愛子 (水産経済学・海洋政策学)
奥田 昇 (生態科学)
菊地 直樹 (環境社会学)
MCGREEVY, Steven R. (環境社会学)

■特任教授

杉原 薫 (経済史・環境史)

■客員教授

内山 純蔵 (環境考古学・景観論)
春日 文子 (食品衛生学)
蟹江 憲史 (地球システムガバナンス)
金子 慎治 (環境経済学)
草郷 孝好 (実践的開発研究)
榊原 正幸 (地球環境科学)
中静 透 (森林生態学・生物多様性)
縄田 浩志 (文化人類学)
檜山 哲哉 (生態水文学)
船水 尚行 (衛生工学)
松井 健 (文化としての自然)

水野 廣祐 (インドネシア地域研究)
村松 伸 (建築史・都市史)
村山 聡 (経済史・環境史)
米本 昌平 (科学史・科学論)
RAMPISELA, Dorothea Agnes (土壌水文学)

■客員准教授

市崇 智明 (森林生態学)
白岩 孝行 (雪水学)
高木 映 (水産学・分子生態学)
寺田 匡宏 (歴史学・博物館人類学)
半藤 逸樹 (地球システム科学・数理モデリング)
本間 航介 (森林生態学)
安富奈津子 (気象・気候学)
吉田 丈人 (生態学)

■プロジェクト上級研究員

気候適応史 佐野 雅規 (古気候学)
エリアケイパビリティー 渡辺 一生 (地域研究)
FEAST 田村 典江 (自然資源管理)

■プロジェクト研究員

小規模経済 安達 香織 (考古学・文化財学)
小規模経済 真良 理香 (考古学・民族学)
気候適応史 伊藤 啓介 (日本史)
気候適応史 鎌谷かおる (歴史学・日本史)
気候適応史 對馬 あかね (古気候学)
地域環境知 大元 鈴子 (環境認証社会学)
地域環境知 北村 健二 (環境学)
地域環境知 竹村 紫苑 (景観生態学)
地域環境知 三木 弘史 (統計物理学)
環太平洋ネクサス 王 智弘 (資源論)
環太平洋ネクサス 増原 直樹 (樹政学・エネルギー政策)

環太平洋ネクサス 山田 誠 (水文学)
栄養循環 浅野 悟史 (地域資源計画論)
栄養循環 石田 卓也 (森林環境学)
砂漠化 石山 俊 (文化人類学)
砂漠化 手代木功基 (地理学)
砂漠化 宮崎 英寿 (境界農学)
FEAST 太田 和彦 (日本型環境倫理)
FEAST 小林 舞 (環境社会学)
FEAST RUPPRECHT, Christoph David Dietfried (地理学)

■プロジェクト研究推進支援員

小規模経済 小鹿由加里
小規模経済 小林 優子
小規模経済 竹原 麻里
小規模経済 富井 典子
気候適応史 山本 真美
気候適応史 李 貞 (地球環境科学)
地域環境知 KITOLELEI, Jokim Veu (水産資源管理学)
地域環境知 福嶋 敦子
環太平洋ネクサス 岡本 高子
環太平洋ネクサス 寺本 瞬
環太平洋ネクサス 本田 尚美 (沿岸海洋学)
栄養循環 上原 佳敏 (生態学)
栄養循環 渡邊 桐枝
砂漠化 五十川あき
砂漠化 紀平 朋
エリアケイパビリティー 柿岡 諒 (魚類進化生態学)
エリアケイパビリティー 本間 咲来
FEAST 松岡 祐子

■FS研究員

水野FS 内藤 大輔 (東南アジア地域研究・ポリティカルエコロジー)

研究基盤国際センター

■センター長 窪田 順平 (併任)
■コアプログラムディレクター 谷口 真人 (併任)

■部門長

計測・分析部門長 陀安 一郎 (併任)
情報基盤部門長 関野 樹 (併任)
連携ネットワーク部門長 MALLEE, Hein (併任)
コミュニケーション部門長 阿部 健一 (併任)

■特任助教

武島 弘彦 (分子生態学・進化遺伝学・水産学)

■人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター研究員／特任助教

蔣 宏偉 (人類生態学)

■教授

阿部 健一 (相関地域学)
窪田 順平 (森林水文学)
関野 樹 (情報学)
谷口 真人 (水文学)
陀安 一郎 (同位体生態学・同位体環境学)
MALLEE, Hein (社会科学)

■センター研究員

加藤 義和 (水域生態学)
齋藤 有 (堆積学)
西村 武司 (環境経済学)
由水 千景 (生物地球化学)

■准教授

石井励一郎 (理論生態学)
近藤 康久 (考古学・地理情報学)
NILES, Daniel Ely (地理学)

■センター研究推進支援員

太田 民久 (森林生態学・生態学的化学量論)
岡 昌美
長田 穰 (生態学)
岸本紗也加 (国際協力学)
嶋田奈穂子 (思想生態学)
林 憲吾 (建築学・東南アジア近代建築・都市史)
松林 順 (安定同位体生態学)
三村 豊 (建築史・都市史・歴史GIS)
数崎 志穂 (同位体水文学)

■助教

大西 有子 (環境学)
熊澤 輝一 (環境計画論・地域情報学)
申 基澈 (岩石学・地球化学・同位体地質学)

IR室

■室長 谷口 真人 (併任)

室員 窪田 順平 (併任)
室員 佐藤 哲 (併任)
室員 陀安 一郎 (併任)

室員 近藤 康久 (併任)
室員 熊澤 輝一 (併任)
特任技術専門職員 押海 圭一

広報室

■室長 窪田 順平 (併任)

室員 阿部 健一 (併任)
室員 石川 智士 (併任)
室員 関野 樹 (併任)
室員 田中 樹 (併任)

室員 菊地 直樹 (併任)
室員 NILES, Daniel Ely (併任)
室員 MCGREEVY, Steven R. (併任)
室員 熊澤 輝一 (併任)

施設の紹介

地球研では、既存の学問分野の枠組みを超えた総合地球環境学の構築をめざしています。そのために、研究スタッフが研究室の枠組みにとらわれず議論し、互いに切磋琢磨できる環境を整備することが重要であると考えています。この発想は建物設計にも反映され、研究室ごとに壁を設けず、各研究プロジェクトの独自性を保ちつつも共同研究を可能にするような造りとなっています。

地球研は京都市北区上賀茂に位置しています。この地域が風致地区に該当することもあり、外観には瓦葺きを取り入れ、施工前よりあった樹木を生かすなど周辺の景観に馴染む工夫がされています。また、自然光の採光や断熱性を高めるなど省エネのための配慮がなされています。

■施設の概要

敷地面積	31,401m ²
建築面積	6,257m ² (本館：5,610m ² 、地球研ハウス：647m ²)
延べ面積	12,887m ² (本館：11,927m ² 、地球研ハウス：960m ²)
構造	本館：RC 造一部S 造、地球研ハウス：RC 造
階数	本館：地下1階 地上2階、地球研ハウス：地下1階 地上2階

2階 外来レベル

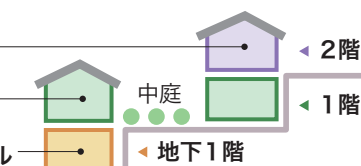
エントランスホール
展示ロビー
講演室
管理部事務室
セミナー室
ダイニングホールなど

1階 研究レベル

プロジェクト研究室
研究基盤国際センター
情報処理室
図書室
人間文化研究機構関西連絡所

地下1階 実験レベル

実験室
書庫
設備室など



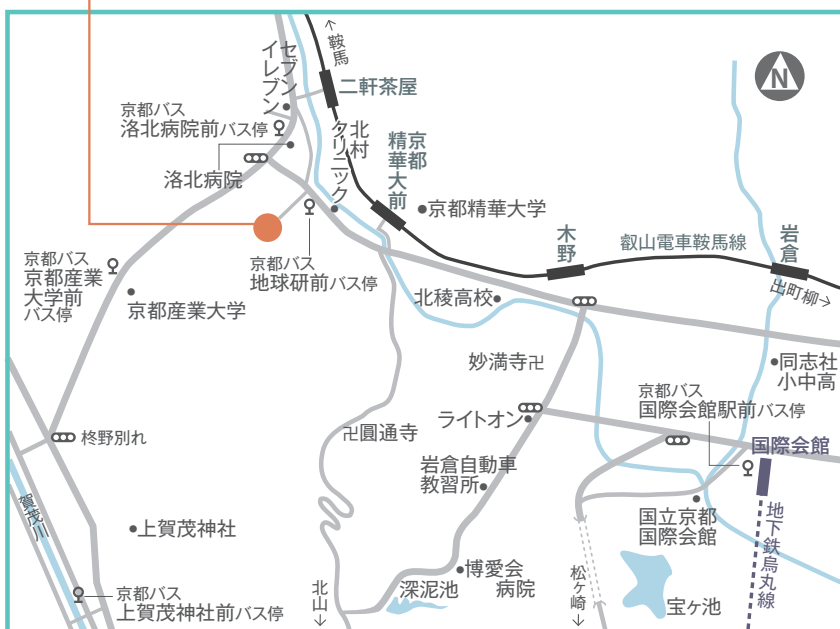
地球研本館と地球研ハウス





交通案内

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所



地球研正門前に標識があります




公共交通機関でお越しください

- 地下鉄烏丸線**
 京都駅→(20分)→国際会館駅→京都バス40系統「京都産業大学ゆき」または50系統「市原ゆき」または52系統「市原経由貴船口・鞍馬・鞍馬温泉ゆき」(6分)→「地球研前」バス停下車すぐ
- 京阪沿線**
 出町柳駅→叡山電車鞍馬線(17分)→京都精華大前駅→(徒歩10分)→地球研
- 上賀茂方面より**
 ・京都バス32系統、34系統、35系統に乗り、「洛北病院前」バス停下車徒歩10分
 ・もしくは、上記に乗り「京都産業大学前」バス停下車後、京都バス40系統「国際会館駅ゆき」に乗り換え、「地球研前」バス停下車すぐ





大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4
TEL. 075-707-2100(代) FAX. 075-707-2106
<http://www.chikyu.ac.jp> 地球研 検索  

ISSN 2185-8047
発行 2016年5月

ちきゅうけん

